群馬型の産業戦略、街づくり政策について政策提言

各県のオンリーワンの取り組みに触れる

後藤は、毎回の議会質問において常に、若い世代が郷土群馬で希望を持って働ける雇用環境を作るためには、群馬の特徴を活かした新しい産業を創出することが不可欠であると主張してきました。

今議会では、現政権のもとで成立した「再生可能エネルギー特措法」により、太陽光や水力などの再生可能エネルギー関連の産業は現在の１兆円市場から２０２０年には１０兆円市場に成長すると見込まれています。

後藤はこの間、日本一の日照県の強みを活かし、メガソーラー発電(1,000kw以上)の誘致や、関連産業の集積に取り組む岡山県や、LEDの世界的企業が立地する強みを活かして「LEDバレー構想」を打ち出し、LED関連企業の集積に取り組む徳島県などを訪問調査し、まさにオンリーワンの先進事例に肌で触れてきました。

岡山県・徳島県の次世代産業育成の成長戦略を視察（写真は徳島県庁にて）

群馬の「強み」を活かした新成長戦略を提言

今議会で後藤は、群馬県の強みである日照時間の長さ、豊富な森林・畜産由来のバイオマス資源などを活かし、太陽光やバイオマス発電を県内に普及することを提言。

そして同時に、電気自動車や蓄電池を開発する企業が立地している強みを活かし、これら次世代産業への県内企業の事業進出を積極的に支援することにより、県内に新たな産業・雇用を創出するべきと提言しました。

知事も、年度内に太陽光発電等の導入目標を具体的な数値目標として打ち出すことを明言しました。

富山県のLRT（次世代型路面電車）

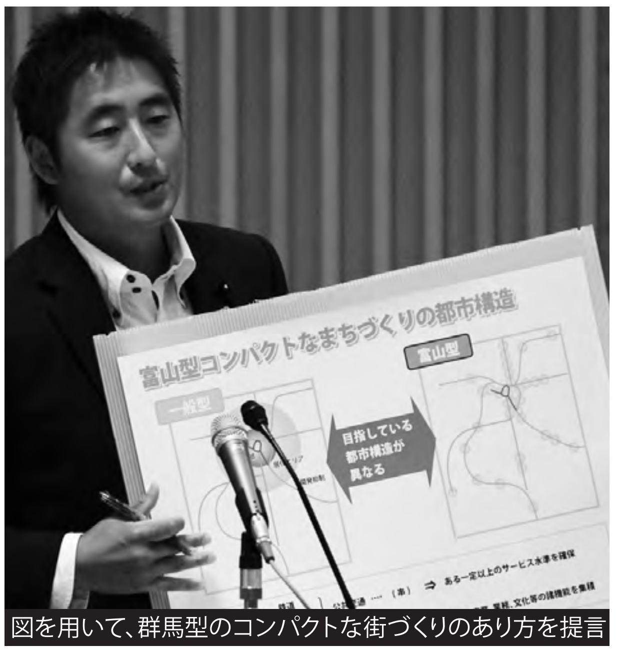
公共交通を軸とした群馬型コンパクトシティを提言

後藤は、議会質問の度に、高齢化社会を見通し、車社会一辺倒に突き進んできた拡大型の街づくりのあり方を根本から見直すことを提言しています。

８月には、富山県・石川県における、公共交通を軸としたコンパクトな街づくりのあり方を視察調査しました。特に、富山県は群馬以上のマイカー王国ながら、ＬＲＴ（次世代型路面電車）を導入するなど、インパクトある施策で、市民の足を公共交通に戻す取り組みを進めています。

従来、コンパクトな街づくりというと、例えば高崎ならば高崎駅周辺の中心部に都市機能を集約するという考え方になりますが、それでは群馬県の実情に合わないと考えます。

後藤は、視察調査の成果を踏まえ、まずインパクトある施策で公共交通を魅力あるものにし、そして鉄道駅やバス停の周辺になるべく住んでもらうための居住促進策を進めることにより、公共交通路線の軸にお団子のように人口集中地域が形成される「群馬型」のコンパクトな街づくりを提言しました。



図を用いて、群馬型のコンパクトな街づくりのあり方を提言

地域活動ミニ報告

豊岡地区

上台地区の長年の懸案だった市道の水道工事後の仮舗装状態を本舗装に復旧し、静かな道路に

406号沿いの雨水対策としてグレーチングの設置と未舗装部分の舗装を実施